

ふじのくにグローバル人材育成事業 報告書

参加した コース	ふじのくに地域探究コース (静岡と世界を繋ぐマイプロジェクトコース)		訪問国	オーストラリア	
学校名	静岡中央高等学校	氏名	長谷川芽咲	学年	2年

1. 留学期間 9月1日～10月3日
2. 留学地域 オーストラリア パース
3. 留学テーマ オーストラリアで学ぶ絶滅危惧種、野生動物保護の方法

<テーマの設定理由>

幼少期から動物が大好きで動物保護の活動に興味があったことと、近年クマやカモシカの出現が問題となっておりニュースなどで殺す殺さない論争が流れることが多く動物と人間の共生について、通っていた塾で絶滅危惧種について学ぶ中でそれらの動物を守るために自分にできることを探したいと思うようになったからである。

<探究方法とその他留学中に行ったこと>

1. レッドレンジャー動物園でボランティア活動に参加する
2. 職員の方にインタビューをする
3. RSPCA 動物保護施設への訪問
4. ロットネスト島に行く
5. パース動物園に行く



ボランティア活動中に触ったコアラ



ロットネスト島で撮ったクオッカ

<探究活動で得たもの>

ボランティア活動に参加し、動物との接し方を学んだ。それは動物の視点に立って考えて行動することだとわかった。職員の方へのインタビューではオーストラリア市民の絶滅危惧種や野生動物などの動物保護への関心が高い理由は自国の固有種である動物に誇りを持っているからだを知った。そして、日本が絶滅危惧種や野生動物を守るためにすべきことは公衆教育を行うことだとわかった。庭に在来植物を植えるなどの簡単にできる保全活動を啓発することで実際に試してくれる方を作り、そこから環境保護や動物保護へ関心を持つきっかけにもなるからである。



<その他の活動で得たもの>

ロットネスト島に行きクオッカを見てきたのだが、とても平穩に暮らしていて個体の数も多かった。そしてその訳はきっと自然豊かな環境とルールを守る人々のおかげなのだろうと思った。人間が動物の環境に与える影響は大きく、人間の行動が非常に大切なことが分かった。

パース動物園という絶滅危惧種の繁殖プログラムや野生復帰を行っている動物園にも行った。そこでは自動販売機の売り上げの一部が野生動物保護の活動の資金として使われているとのことだった。また、具体的にどのような動物の繁殖プログラムや野生復帰などを行ったかについて園内にある看板に掲載されていた。園内の道中に建てることで人々に見てもらいやすいなと思った。

<この留学を通して感じたこと>

留学は上手くいかないことばかりで途中で投げ出したくなったことも少なくなかったけれど、周りの人の支えもあり、無事に留学を終えて探究活動の問いに対する答えを持ち帰ることができて安心した。異国の地で興味があることを探究し、親元を離れて生活したことで挑戦する気持ちや自立性を高めることができ、人として大きく成長できたと思う。